

市政を問う 一般質問

地域防災力の強化

：防災

総合防災訓練の課題は何か

堀口修一議員

問 課題を明らかにし、対策を向上させていくための総合防災訓練。前回から改善された点と新たな課題は。

答 前回は事前準備において、役割分担などが不明確であったが、今回は避難所運営会議を開催。課題の洗い出しや自主事業の実施など訓練内容の充実を図った。さらに、情報収集班の派遣とIP電話による交信訓練の実施、テレビ会議による連携を図った。また、各町会・自治会による市民主体の防災訓練実施が新たな課題である。

問 隣接する他市町の各町会へ参加の呼びかけをしていくべきでは。

答 防災レベルの均一化を図る上でも必要であると考え。その手法は今後の課題である。

問 マンション住民の参加状況と対策は。

答 いくつかの大型マンションの住民には、積極的に参加していただいている。県ホームページに掲載された「マンション震災時活動マニュアル作成の手引き」の周知に努めていく。

問 要援護者の避難訓練は。また、要援護者避難所へ直接避難すること必要では。

答 一部の町会・自治会で実施した。要援護者避

難所開設にかかわる課題は検討していく。

要援護者対策を進めよう

鈴木啓太郎議員

問 災害時に高齢者や障がい者の犠牲者を減らしていくために、国の方針で要援護者名簿作成が義務化され、関係部署で共有すべきとされた。防災訓練などでの福祉避難所開設とあわせ、市の対応は。

答 これまでの手上げ方式による災害時要援護者の名簿の作成から共有方式に転換していく。万単位の名簿の作成が必要で、これから関係部局の連携を進め、情報の共有を行う。それに基づ

災害時における協力的体制の拡充を

小林憲人議員

問 店舗等とは災害時における協力協定を結んでいるが、工場に関しては協定の締結を進めてみては。

答 一時避難場所や防災資源等の提供をいただくことは有効。協定の締結を進めていく。

大型地震への備えを

島田典朗議員

問 県の新たな地震動推計による地域防災計画の見直しは。

答 切迫性の高い地震が想定されており、県の人的被害やライフライン被害想定と整合性を図り見直ししていく。

消防団の認知度向上を

島田典朗議員

問 消防団に関する積極的な広報活動を。

答 市のホームページへのリンク設置や市報への掲載等、より積極的な支援を図っていく。

ICT部門の業務継続

小林憲人議員

問 災害時のICT部門

における業務継続は最優先項目。インターネット接続を一社のみに頼るのではなく、数社からの接続を可能にするべきでは。

答 インターネット接続について、庁内ネットワークの二重化や無線LANの活用等、災害に強い仕組みづくりを進めていく。

豊かなまちづくり

：文化・芸術

旧三福学校の復元

山田敏夫議員

問 近代的教育の発祥の建物である旧三福学校（※校舎市指定文化財）を復元する考えは。

答 上福岡歴史民俗資料館と大井郷土資料館のあり方も含めて、総合的に検討したい。

旧三福学校を観光資源に

田村法子議員

問 旧三福学校は復元を条件に取り壊され、その一部は保存されている経緯がある。復元



保存されている木材



旧三福学校（模型）

※旧三福学校 明治11年に、福岡村・中福岡村・福岡新村が合同して福岡村に設置した学校。

は文化的価値を生み、数少ない今後の観光資源となり得る。市の考えは。

答 昭和57年に解体復元調査をし、部材を保存している。復元には建築費が1億6千万円かかる。建築用地が確保できるか問題である。復元の必要性は認識しているが、財政負担を考えると難しい。

羽ばたけ ふじみん

仙田 定議員

問 ふじみ野市応援ソング「羽ばたけ ふじみん」の歌とダンスの活用を幅広く積極的に働きかけるべきである。地元を思う愛着心や誇りの醸成や、市のイメージアップにもつながると思うがいかがか。

答 保育所や小中学校では、運動会や体育祭などに歌やダンスの活

き、避難所での要援護者の搬送訓練等の実施を考える。

用を進めている。今後さらにも多方面へ働きかける。

問 歌を毎日夕方放送している「夕焼け放送」のメロディや、上福岡駅の発車メロディに活用してみても。

答 検討する。

婚活支援

田村法子議員

問 ふじみ野市らしい婚活支援をしてはどうか。

答 直接実施はしていない。地域の活性化を目的に街コンを開催している例などもあり、今後の検討課題としていく。

花・木・鳥の制定は

福村光泰議員

問 合併10周年の平成27年に向けて、市民に未永く愛され親しまれ、郷土の象徴とする「花・木・鳥」の制定に対する考えはあるか。

答 従来からの慣行として「花・木・鳥」を

定めてきた意義もあり、制定について検討する。

市民の芸術作品の展示を

山田敏夫議員

問 市民の芸術文化の振興を図るため、市民の制作した作品を新庁舎や公園など野外に展示できないか。

答 8月にオープンした大井総合支所に展示スペースを設置した。また平成28年に完成予定の本庁舎増築棟にも計画している。

野外展示についても、引き続き公園の利用を許可することによって、より多くの市民の方に芸術・文化に触れていただく機会が増えるようにしていきたい。

公共施設の維持管理

仙田 定議員

問 施設の老朽化にあたり、公共施設アセットマネジメントの考え方を導入し、建物の修繕、更新、処分計画な

どを一括管理するシステムを早期に完成させるべきでは。

答 市では、平成22年度からデータ整備に着手しているが、現在は修繕履歴の調査確認をしている段階である。アセットマネジメントの導入により、これまでの施設の長寿命化を図るための「保全整備」から「予防保全整備」へ切り替える。さらには市全体の公共施設に対し、質と量の見直しを適正に行っていく方針である。

ふるさとハローワーク開設と就労支援

新井光男議員

問 ふるさとハローワークの開設は。

答 川越ハローワークと数回協議を重ね、要望書を提出した。設置に向けて引き続き積極的に努力する。

問 若者の雇用対策の充実を。

答 12月には、若者向け

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。今回の議会では、17人の議員が一般質問を行いました。掲載した内容は各議員本人が要約したものです。なお、全ての質問と回答は市議会ホームページの会議録で閲覧できます。（11月下旬掲載予定）

